

アンヘラス大学で特別講義を行いました。(2015/1/9)

場所：アンヘラス大学（フィリピン）
テーマ：「災害と感染症、災害とメンタルヘルス」

1月9日（土）にフィリピン、ルソン島中央にあるアンヘラス大学で江川新一教授と富田博秋教授が災害医学に関する特別講義を行いました。アンヘラス大学との部局間協定に基づき、災害マネジメントコースの一環としての特別講義の3回目（最終回）です。

江川新一教授は、①災害に伴って流行する可能性のある感染症、②外傷の多発に伴って増加する破傷風、③気候変動や人の動きのグローバル化に伴う新興感染症にテーマを絞って解説しました。また、感染症という概念が形成された19世紀初頭の研究者イグナス・ゼンメルワイスの逸話を用いて、参加者の興味を引き付けました。ゼンメルワイスは細菌の存在すら発見されていなかった時代に産褥熱の原因が病室に住む魔物（悪い空気）などではなく、汚れた手にあるということを示したのです。十分な資源がない災害のときこそ、感染症の基本的な対策は清潔と栄養、被災者の教育にあることを示しています。

富田博秋教授はメンタルヘルス、とくに津波や殺人、レイプなどに遭遇したことによりうける精神的なストレス反応 Post Traumatic Stress Response（そのうち一部がストレス障害 Post Traumatic Stress Disorder）についてメカニズムと対策について解説しました。メンタルヘルスは災害の多いフィリピンにおいてもこれまであまり顧みられることがなかったとされ、また精神科医の普及もまだ進んでおらず7000以上もの島嶼からなるフィリピンに500名程度の精神科医しかいません。だからこそ一般の保健・医療従事者に対して災害時のメンタルヘルス・こころのケアについて教育することが重要です。富田教授は東日本大震災で被災した七ヶ浜町でのコホート研究の成果も披露し、地域社会においてPTSRの自覚を促すことで、恐れを少しずつ解消し、また解消できない場合には治療介入が可能になることをわかりやすく説明しました。

今回で一連の特別講義は終了ですが、災害医学の総論・各論を体系だて、国内外で実践することができ、カリキュラムとして樹立していく可能性が高まりました。広く一般の災害科学関係者、保健・医療従事者、そして一般市民に、災害の後に起きるからだところの健康の問題を認識していただき、適切な対応、そのための備えをすることに役立てて行きたいと考えております。



講演する富田博秋教授



アンヘラス大学教授陣と江川、富田両教授
文責：江川新一（災害医学研究部門）